同志社學生新聞
4頁 20円
発行所
同志社学生新聞局
京都市上京区烏丸上立売西入同志社学生会館別館２階
電話京都(21)2311 内線579
振替京都 26011番
（宛先同志社学生新聞局）

卒業生特集号

学生運動の課題と任務

卒業生座談会

出席者　木原　和美（文四）　古寺　純（商四）　中本　務（文二）　山本　猛（文四）　矢谷暢一郎（文三）　司会　高岡　則三（文三）

大学時代学生運動を経験し、七〇年安保を二年後にひかえて大学から、現実社会の巨大な資本主義機構の中に入って行く人達が過去の運動の過程を通じて形成して来た思想をつらぬくことは何によって可能であり、数年後にそういう現実にぶっかってゆく現在の学生運動、そして活動家達をささえてゆくものはいったいなんであるかということを、学生運動の現在的情況を考察しつつ追求してゆくことを意図して、卒業生座談会を持った。（編集部）

学生運動の先駆性とは何か

高岡　ここにいる方々は学生運動を経験し、あるいは今指導的役割をしている方々ですが、卒業さ……のあたりから話しに入って行きたいと思います。

……

要請される党形成

学生運動の限界の克服

流動する情況への方向を

情勢と主体の媒介は組織

生産点における革命性の貫徹

論説

七〇年安保闘争の現段階

王子野戦と三里塚闘争と反合理化闘争と連結して勝利せよ

佐世保―中大闘争以降の日本階級闘争の現局面は、王子・米軍野戦病院開設と成田新国際空港建設に対する阻止闘争と国鉄五万人首切りを頂点にした第三次合理化攻撃に対する反合理化闘争であり、これらの闘争の激化と全国化に対する国家権力の熾烈な弾圧が日本帝国主義の七〇年安保体制への性格と方向をますます鮮明に顕在化具体化せしめている。王子・米軍野戦病院阻止闘争は、二・二〇、二・二七、三・三を経て三月八日に、成田新空港阻止闘争は二・二六を経て三月一〇日に、反合理化闘争は二・二七以降の第二次順法闘争を経て三・二半日スト（全国五十二拠点で）と二月二十四日の東京都電撤去阻止闘争（九〇八〇人の首切り反対闘争・この日五九名の逮捕者を出した）全学連―地区反戦の突出部隊が先鋭的かつ集中的に闘争を展開し、このことが佐藤反動政策の政治的暴露と、さらに広範な国民大衆の反政府意識・行動と拠点闘争から全国闘争への不断の萌芽状況を形成しつつあることである。

（一）

日本帝国主義の、米軍の要請による王子・野戦病院開設と成田新国際空港建設に対する積極的な推進は、七〇年安保体制の基本的な動向を先見的にかつ具体的に表現しているとみてとることができる。日本帝国主義の七〇年安保体制とは、戦後世界体制の変動―戦後アメリカ帝国主義の世界戦略（IMF体制とNATOを基本的補完軸としたヤルタ体制）の動揺―後退→再編にともなう日米関係の改変・再編に規定される日帝の世界戦略と国内戦略に他ならない。この日帝の世界戦略と国内戦略は、一方では再編される米帝国主義の世界戦略（今やベトナム戦争の決着いかんが決定的鍵とみてよい）の「枠内」での指向と、他方では「枠外」での独自的自立的指向が同時性と連続性をもって遂行される性格のものである。このことは、米帝の世界戦略の「枠内」から「枠外」へという一方的なものでは決してなく、両者が同時的にかつ複合的にからみあって存在することである。そして、両者の比重的関係＝反比例的関係は日米間の経済的政治的（軍事的）力関係によって決定されるだろう。この七〇年安保体制における日米間の内実性を最も先鋭的に表現するのは、日帝の沖縄返還の獲得内容と核武装化の実現内容であろう。

われわれは右の事柄に関して確心的である。なぜなら、政府内および自民党内における対米政策や外交政策に関する微妙なくいちがいや対立状況を、アメリカのドル防衛協力、輸入課徴金、核拡散防止条約、沖縄返還、防衛論争と核武装、B52駐留などの諸問題にみてとることができるからである。しかも、そのような状況は、流動過程から佐藤―福田体制に対する赤城、前尾、中曽根を中心としたニューライト体制の台頭として固定的対抗関係すら顕著にしつつあるのである。

（二）

王子米軍野戦病院の開設と成田……

ダイヤモンド社　東京都千代田区霞が関／振替東京25976

ダイヤモンド会社就職案内〈大学編〉'69年版
ダイヤモンド社編　B6判／四八〇円・〒70
大学を卒業し、厳しいビジネスの世界に生きようとするみなさんのために――心をつくして贈る就職案内の決定版です。選ばれた全国重要会社の最新就職資料、主要会社の試験問題、英語問題、代表会社の模範解答――就職試験の内容も、会社の求める未来の人間像もハッキリします。
★主な内容――
会社案内編＝会社概要、初任給、昇進昇格ほかの精密調査
試験問題編＝主要会社の試験問題・主要会社の英語問題（模範解答付）
代表会社の模範解答／ほか

日本の会社・日本の経営　坂本藤良編　エグゼクティブ・ブックス／三五〇円・〒70
ワールド・エンタープライズ　●企業を貫く非情の論理　田口憲一著　エグゼクティブ・ブックス／二八〇円・〒50
若きビジネスマンへの手紙　扇谷正造編　新書判／二八〇円・〒50
若い女性への手紙　上坂冬子編　新書判／二八〇円・〒50
若きビジネスマンに贈る12章　ダイヤモンド社編　新書判／三二〇円・〒70

化学／生物／図学／家政（栄養被服）等の定評あるテキスト！
理工図書目録・教科書目録贈呈
化学講義資料　北大教養部化学教室編　B5／一一二頁　定価 三〇〇円
大学教養課程の化学の授業において、時間数と学生の系列・程度により教官が自由に講義し、学生に科学的な思考力理解力をつけさせることをネライとして、基本および最新高度の資料図表と実力のつく問題のみによる新形式の好テキスト！
文科系の化学　大阪・都立各大名誉教授／城西大教授　千谷利三著　特に文科系学生のために基礎と応用面を解説。A5・五〇〇円
短大高専の化学　北大名誉教授／釧路工専校長・坂元義男他著　基本を徹底的に理解させる書。A5・七八〇円
要説食品栄養化学　都立立川短大教授横山正實著　教養としての食物の化学知識を解説・A5・定価六五〇円
東京都千代田区神田小川町3〜10　(291)3711　振替東京1065
三共出版株式会社

ダビドフ 量子力学　Ⅰ¥1,400　Ⅱ¥1,800　Ⅲ¥1,400　全巻揃¥4,300
レーニン賞を受けたダビドフ　モスクワ大教授が数年に亘って書いたもので、現在国際的にも最も信頼性ある教科書である。
頭脳への設計 ¥2,400
サイバネティクス入門 ¥1,800
W・R・アシュビーをして一躍世界の権威者とした名著２篇である。未来を拓く新時代の科学哲学として発売以来理工系はもとより経営、経済関係者よりも好評!!
構造設計データブック ¥4,200
建築のみならず機械、船舶、航空機等あらゆる構造関係設計者に必備の宝典として絶賛さる。今回要望により第２版を刊行す。
生命現象の物理面 ¥2,000
回転シェルの理論と計算 ¥2,400
Study of Earthquakes ¥2,800
世界中の関係者より最高権威書と好評の松沢教授のライフワーク。
宇野書店　東京・新宿・若葉1-19　振替東京51816

話題の中心３版！
とにかく頭が痛いや――この本は若い人の間で話題をさらった
思想に強くなる本
室伏高信著　価三九〇円
読み始めたら時計が止まる――思想の話は難かしくて真っ平だという人に読んでもらいたい本です。社会主義や共産主義に傾いている人も、毛嫌いする人も、一気に読める本です。
東京千代田永田町1　全読社　振替東京177752

成田空港 反対闘争果敢に展開

全学連・反戦青委四千人結集　激化する権力の弾圧

成田空港設置に反対する「成田空港反対三・一〇集会」は成田市営球場で三月十日五〇〇〇人を結集して開かれた。全学連一一〇〇人（中核、解放）は三時前から市役所、空港公団分室前に設けられたバリケードに突入を試み、一部は阻止線を突破してバリケード内に入った。一方、午後になってから京成成田駅に到着した全学連（社学同八〇〇。第四インター一〇〇）は駅前、駅構内で機動隊三〇〇〇人と激突。機動隊は解散直前の集会をも暴力的に弾圧。一九八人が不当逮捕された。

前夜から明治大学学生会館に泊りこんだ社学同の学生六〇〇人と第四インター一〇〇人は午後二時四五分京成成田駅に到着と同時に改札口を飛び出して駅前に待ちかまえていた機動隊三〇〇〇人と烈しく激突、学生は投石、角材で必死に応戦したが、機動隊の暴力的弾圧にあい、駅構内に押し返された。この間約十分。学生はホームから線路に降り、線路伝いに集会の行なわれた市営球場へ向った。

市営球場付近の市役所、空港公団分室に通じる坂道には昨夜の闇に警察側が数百万円の資金を投じてバリケードを築いており、学生はこのバリケード撤去のため、何度も突撃をくり返す。バリケードの後には四〇〇〇人の機動隊。学生は「空港公団分室を焼き払おう！」を合いことばに成田に集結した。しかしバリケードをなかなか突破できないのにいら立ってか一人の学生が芝にガソリンをかけて火をつける。モクモクと上がる煙にあわてて放水でこれを消し止めようとする警察側。放水のほこ先はバリケード前の学生にも向けられる。この日、佐世保以来二度目の催涙液の放水が行なわれた。

やがてバリケードの一部が破壊され、十人ほどの学生が公団分室に向って走り出した。あわててこれを追いかけ、乱打する機動隊。

四時半ごろ、反戦青委のデモ隊を暴力的に排除にかかった機動隊は、これを契機として一勢に学生労働者に襲いかかった。投石する市民に向っても、続けざまに催涙弾が投げ込まれる。

ちりぢりになったデモ隊は再び市営球場に集結し、五時過ぎから全国反戦主催の「全国集会」が開催された。全員地面に座って集会を注視する。このころから市営球場の周囲には機動隊が集結し始め集会を見降す形となった。全国反戦のあいさつが終った時、市役所側の機動隊が突然集会地点に向って走り出した。それを契機に四方の機動隊が一切に行動を起す。集会に参加していた労働者、学生は八方から機動隊の厚い壁にとり囲まれた形となった。反戦のスピーカーが「機動隊、暴力はやめろ」と叫ぶが、あちこちで激しい弾圧が展開される。警棒に割れ飛ぶヘルメット、血まみれになって倒れる学生、現地反対同盟の主婦。まさに権力の実体をむき出しにした弾圧ぶり。当日の負傷者は労働者、学生あわせて五百人以上。逮捕者は一九八人にのぼった。

激しい放水に抗して進む全学連

解説　成田＝東南ア侵略拠点　労働者、学生、農民の反帝同盟を

日本支配者階級は七〇年後半、もしくは七一年初頭までの成田空港の完成を目標に血眼になっている。何故、彼らはそれほどまでにして成田空港の完成を急がねばならないのか。

七〇年安保はすぐれて後進国民族解放闘争に対する日米反革命同盟の強化の問題であり、第二に、日本帝国主義の東南アジア支配＝市場再分割の具体的第一歩としての内容を有した問題である。帝国主義国間の不均等＝発展、平準化局面を迎えた現在、日本帝国主義は東南アジアにおけるアメリカの支配の肩代わりとしての「東南アジア共同防衛圏構想」を打ち出している。その具体的表現としての沖縄基地掌握、そこへの帝国主義軍隊の派遣、国内全部門にわたる再編の強化の一環として成田空港が存在する。

すなわち成田空港は日本帝国主義のアジア侵略拠点であり、沖縄はその前進基地である。政府ブルジョアジーは、国民各層のナショナリズムへの吸引、基幹産業労働者、ルンプロ層の資本への抱き込み、突出する部隊に対する帝国主義軍隊による武力弾圧によって七〇年安保闘争をのり切り、全面的海外侵略に踏み出そうとする構想を有している。成田は沖縄基地とともにその要である。

日本帝国主義の国内全産業部門にわたる帝国主義的再編は、顕著に農業部門に現出している。中小農民層の没落、プロレタリアート化は三里塚現地反対同盟内部に分解を引き起している。すなわち土地を守る闘いとして出現した反対同盟運動は明確に反帝、反政府闘争としての質を滞びつつある。今後の闘争に要請されることは全学連＝反戦＝農民の反帝同盟部隊を七〇年安保に向けて強化することであり、三・一〇闘争はその萌芽形態を示したといえよう。

登録医制反対闘争　全国的に盛り上がる　政治闘争に転化か

登録医制度に反対する医学連、青医連の運動は全国的な規模で展開され、政治闘争としての質を滞びつつある。二月二十日からはじまった医師国家試験（現行制度最後の試験）に願書を提出した者は有資格者中の四六％にとどまり、全国四六校中三五校が集団ボイコット決議を出しており、願書提出者が十人以下という学校は東京医歯大、京大、阪大、北大、東北大熊本大など二四校にのぼっている。

医学連、青医連は登録医制度を「厚生省が二年間の研修を義務づけ、その間病院で低賃金の下級医師として使役し、医師不足を解消しようとするドレイ法案である」という観点から、医療の営利事業化反対を目標に闘争を行なっている。現在、授業放棄、卒試ボイコット、研修ボイコットでストを行なっている大学は東大、京大、神戸大、新潟大、東京医歯大、京都府立医大などがあるが、厚生省は「現行制度最後の試験を受けなければ新国家試験にパスしても、これまでのインターンの研修期間は認めない」という方針を打ち出して闘争の切り崩しを計っている。

これに対して医学連は「当然、新国家試験もボイコットする」といっており、闘争のヤマ場は今年五月以降に実施される予定の新国家試験に持ち込まれる公算が強い。

医学連、青医連は三九年以降のインターン制反対闘争、今年からの登録医制反対闘争の中で問題意識が先鋭化しつつあり、闘争は次第に政治闘争としての性質を滞びて来ている。そのことは数次にわたる青医連の全国統一行動の高揚、王子野戦病院開設阻止闘争への医学連の参加などに見られる。

（解説）、登録医制度とは

▽インターン制を廃止し、医学部卒業後ただちに医師国家試験を受けて医師となることができる。

▽国家試験に合格した「医師」は「医師試験研修審議会」の意見を聞いて厚生省が指定する「教育病院」または大学病院で二年以上臨床研修を行なうよう「努めなければならない」研修後、本人の申請にもとづいて「医籍」に登録する。

これはインターン制度に見られた無資格医が直接的に医療にたずさわるというこれまでの欠点を、医学部卒業生に「医師」の資格を与えて臨床＝低賃金医療技術労働につかせることにより隠幣しようとするもので、インターン制度と何ら本質的な差異はない。

合格者大巾に減少　経・工の減が特に目だつ

合格発表

本学入学者の合格発表が二月二六日経済、商、工学部、二月二七日法、文、神学部の順で寧静館一番教室で行なわれた。これを学部別で見ると経済学部一部一四一二人、二部二九九人、商学部一部一四八五人、二部二〇八人、工学部二三九二人（一部のみ）、法学部一部一五三四人、二部四三〇人、文学部一部一九六六人、二部一八人、神学部二一人（一部のみ）である。

本年度はベビーブームの影響が最も強くあらわれる年であるといわれ、本学でも戦後最高の六万四三三人が受験したにもかかわらず、合格者は昨年度に比べて七一二人減少した。とくに二部の経済学部と工学部で合格者の著しい減少がみられ、それぞれ一八七人、三九八人であった。

また本年度からは無試験合格者を商業新聞等に発表しなくなったため、昨年度に比べて公表の合格者は一四五五人減少していることになった。本年度の無試験合格者のうちわけは学内四つの高校（同志社、同志社女子、同志社商業、同志社香里）から七〇八人、沖縄特別奨学生三五人である。

解説　明確な打解策のない理事会　教授の悲願に屈したか？

本年度の本学合格者は一、二部合計して昨年度に比べて七一二人減っている。この原因について学校当局は、合格者の選考、発表の一切の権限は教授会にあり、財政上はもっとたくさん合格者を発表し、入学者を増やすべきだと主張した人もいたがと、財政危機を暗にほのめかせながらも、結局は昨年度の余りの入学者の激増に困り、本年度は減少させたのだといっている。これに対して合格者の減少の著しかった経済学部、工学部の学部長は、異口同音に故意の減少ではないことを強調している。

本学では合格者決定の全権は教授会にあるのではなく、理事会から学長に答申があり、それにそった形でしか教授会は機能しえない仕組になっている。本年度は昨年度ほど理事会から強い増員勧告はなかったことが合格者減少につながったと見ることができるであろう。

ではなぜ経営難に苦しみ、赤字を口にする理事会が合格者減少を容認したのであろうか。この問題に入る前にまず教授会が何故合格者を少なくしたのかを考える必要があろう。大学教職員組合委員長吉田恵氏（文学部教授）は次のように語っている。「羽田、佐世保闘争を含む最近の学生運動の高揚このことが直接的に合格者減少に結びつくとは断言できない。が、羽田、佐世保以来多くの教授の内部にその問題が入りつつある。真剣にその対策を考えようとしてきている。間接的には確かに合格者減少と大きな関係があると思います」この発言からもわかる通り、羽田、佐世保以降教授の多くが学生運動の過激化という問題にとり組まざるをえなくなってきているのは事実であろう。そしてその問題の解決法の第一に、教授と学生の対話の復活、超マスプロ解消があげられていることは、マスコミで盛んに宣伝されている。この超マスプロ化を何とか喰い止めんとする多くの教授の悲願が教授会をして合格者減少に踏みきらせたと考えることができる。

理事会が依然として本学の危機に対して具体的な解決策を持っていない、あるいはもし仮に一部の理事に明確に産学協同路線＝大同志社構想を打ち出しているものがあっても、いまだに理事会全体をまとめるにいたってないことが理事会が教授会の悲願を甘受する結果となったと考えることが妥当であろう。

おわび

工学部卒業生の方々の名簿は工学部事務室で独自に作成していないため本紙上に掲載することが出来ませんでした。

関係者の皆様方には深くお詫び申し上げます。

編集部

"五回生同盟"結成さる　委員長に上順治君（商）

本学におけるユニークな組織として五回生同盟が結成された。これは来年度五回生となる学生の組織であり、当面の運動方針として授業料の特典を認めるよう学校側に要請するという。現に立命館大学では五回生に対しては授業料負担を大幅に軽減しており（一単位六〇〇円、理工は八〇〇円）同志社が単位数に関係なく一年分の授業料を徴収しているのは不当であると主張している。

さらに長期的には七〇年安保粉砕に向けての組織運動方針も設定するといっており、今後学内においてユニークな運動を展開して行くものと思われる。

五回生同盟への加入資格は五回生であれば誰でも良く、「五回生は全員加盟してもらいたい」と委員長の上順治君（商）は語っている。

深見君、育英会の処分に一人で抗議

本学法学部法律学科三回生深見裕君（マル研）は日本育英会からの一方的奨学金停止処分に対して一人で抗議文を今出川キャンパスに貼り出した。同君は昨年一一月一二日の第二次羽田闘争に参加し検挙され、一〇日間拘留された事によって奨学金停止処分にあった犠牲者の一人である。抗議文の内容はこの日本育英会の処分は七〇年との関係で、日本帝国主義の採る学生運動の弾圧の一環であり、この処分を許すことは絶対にできないという旨のものであった。

全国学費闘争　その勝利と敗北

中大闘争　白紙撤回で勝利　大学首脳部は総辞職　保たれた強固な団結

中大学費闘争は二月一六日午後十時過ぎ、井上学長が学費値上げ案白紙撤回を発表して、三五日間のストライキに終止符を打ち、学生側の勝利となった。

学生側は昨年中にスト権を確立しておき、冬休みあけとともに昼間、夜間両自治会ともストに突入していた。中大闘争のヤマ場はエンタープライズ闘争、理工学部スト、部分入試阻止闘争の三つあり、エンタープライズ闘争は個別闘争と全人民的政治闘争との結合の追求という観点から全学評から阻止闘争代表団を派遣し理工学部ストは理工学部生との徹底討論の中からスト貫徹の方針を引き出し、部分入試阻止闘では高校生に対するオルグ活動を含めて高校生との部分的連帯が勝ち取られていた。

さらにこれらの闘争を推進する学生内の強固な団結を、行動委員会に求め、学校側の切り崩し策である団交には一切応じないという、強力な一貫した方針を指導部は追求して来た。

このため学校当局が入試実施時期の切迫につれて動揺し始め、十三日、升本理事長が辞任、十四日学費値上げの中止案発表という事態が起っていたが学生があくまでも白紙撤回を主張したため、十六日学校側は白紙撤回を認めた。

なお、中大では全理事、監事、学長、学部長が辞意を表明、理事、監事、学長は既に辞表が受理された。

東京女子大　大学側に全面屈服　問われる指導部の無方針性

東京女子大では一月十八日、学校側が一万円の授業料値上げを発表。これに対し学生側は理事会との公開会見要求、経理内容公開要求という形で闘争を進め、スト権確立の段階まで進展しつつも、学校側の切り崩し策により、無関心学生が足を引っぱる形となり、結局、学生自らの手によってスト権を解除するという、全く無内容な「闘争」に終わってしまった。

この闘争とも呼べぬ闘争の敗因は何よりもまず、指導部の無方針性に求められる。指導部＝民青のお定まりのことば「民主的解決」「国庫補助要求」、その結果としての方針「公開会見要求」「経理内容公開要求」では、何故に学費は上がるのかすら説明できないことは種々の学費闘争が経験的に明らかにしているであろう。また東女大の場合、学校側の闘争切り崩しに対して、情宣活動が充分に展開されておらず、学生層内部の闘争に対する不安感、無理解を生じさせ、無関心派を闘争に結集させることが出来なかったといえよう。それが学生によるスト権解除として結果した。

民青指導部の無方針性はスト権確立の採決にあたって、執行部自らが棄権するという危機的状況すら生み出していた。これら一切の指導の無力性を規定するのは学費値上げの問題を学内問題として解決しようとしたその現在の大学の置かれている諸状況に対する認識の致命的欠如であり、それがこの敗北をまねいたといえよう。

「闘争」の事実経過

一・一八　学校側が一万円の授業料値上げ発表

一・二七　東女大初の学外デモ（五五〇人結集）

一・二九　スト権確立（民青指導部はこれに棄権）

一・三一　教授会の声明という形で学校側の切り崩し始まる。学生動揺

二・五・　スト権解除

東北学院　レポート制に敗北　新闘争理念提起できず

東北学院大学では学費値上げ反対闘争がかなりの高揚を見せ、バリケード構築、全学ストの段階まで進展したが、最終的には学生層全般を集約できなかったこともあり、当局の懐柔策の前に全面的に屈服してしまった。

闘争は不断の集会の中での期末試験ボイコット、値上げ案白紙撤回の意志確認がなされ、学校側は二月八日からはじまる期末試験を十二日に延期、さらに学生が二月十一日にバリケード構築、全学ストに突入すると、試験をレポート制に切り変えるなど、闘争の長期化とその中での学生の動揺と分解を待つ方針をとった。

学生はバリードが構築された時点から分解現象をまき起こし、「ストには賛成、バリケードには反対」という部分が増大しつつあった。これは指導部がストに突入しつつも、学校側が打ち出すレポート制に対抗すべき有力な理念（レポート自主管理の理念は全学的に確認されていなかった）を提起できなかったことにある。

このような事態の中で、学校側は「バリケードを撤去せよ。そうすれば公聴会に応じてもよい」と通告して来た。闘争そのものが疲幣化しつつあった学生側は決局、これに応じるという形で敗北を余儀なくされた。

今回の闘争の敗因は何よりもまず、指導部が学生層を強力に吸引しうる闘争理念を提起できず、学生が学校側に集約されていくのを防ぎ得なかったという点に求められるであろう。闘争は常に新しい理念を追求するものでなければならず、過去の闘争のむし返しであってはならないのである。

西南学院　理事会、再度値上げ発表　反対闘争の敗北は決定的

西南学院大学では、大学側が一度発表した学費値上げ案を学生の反対により一応撤回していたが、再び値上げを発表した。

大学側は一月に四万円の学費値上げを発表、学生が試験ボイコット、全学ストで対抗したため、二月一日、「値上げ案は白紙撤回する。値上げについては今後、新しい協議会を作って、学生と改めて協議したい」と発表したため、学生側はバリケードを撤去し、協議会へ参加して行った。この協議会は十五名で構成されており、そのうち八名が学費値上げ反対派の学生であったため、これを知った大学側は協議会の結論が出ないうちに、再度四万円の値上げ案を発表して来たもの。

これに対して、学生側は現在のところ全く対応できていない。大多数の学生が期末試験に埋没してしまっているのが現状であり、目立った反対闘争の動きは全く見られず、敗北は決定的といえよう。

関東学院大も敗北

関東学院大学ではさきに二万円の学費値上げを発表していたが、学生側の対応は「値上げは学校側の経営矛盾にある」という理念以上には進展せず、そのため闘争も経理内容の公開要求、団交要求の段階にとどまり、学校側が一見民主的ポーズをとって、団交に応じ、経理内容も公開するという事態の中で、学生層内部に広範な「値上げやむなし」という部分を生み出し、闘争は真の闘争に転化する以前に衰退してしまった。

第2回「社会新報文学賞」

応募原稿を次の通り募ります

□小説に限る
□書きおろし原稿、同人雑誌、自費出版の単行本に限る
□400字詰原稿用紙300枚程度（3枚以内の梗概をつける）
□締め切り　昭和43年9月30日
□発　　表　昭和43年12月
□送り先　東京都千代田区永田町1の8の1 社会新報編集部「社会新報文学賞」係
□当選作品の版権は「社会新報」に帰属する
□原稿には住所、氏名（本名）年齢、略歴をつける
□原稿返却には応じられない
□応募に関する問い合わせは返信用切手を同封の上で

選考委員＝松本清張、野間宏、開高健、久保田正文

ニューファミリアに仲間がふえた
1200の新登場です
（4ドアDX・フロアシフト）

SAFETY-FIRST NEW FAMILIA 1200 4DOOR DELUXE　安全ベルト ヘッドレスト 標準装備

NEW FAMILIA 1200

このクラスでは類をみないエキサイティングな性能
0→400m 18.9秒
最高時速145キロ
最高出力68馬力

ロータリーエンジンを完成した　マツダのファミリーカー

話題の車、ニューファミリア。その4ドアデラックスに、新設計の1200cc《白いエンジン》搭載・世界の同クラスをはるかにしのぐ性能を実現しました。

しかも、ゆきとどいた安全配慮。ファミリアシリーズのスーパーデラックスタイプ、大衆車クラスでも最高級のファミリーカーです。

いちだんと充実したファミリアシリーズ

NEW ファミリア

東京・大阪・名古屋店頭渡し現金価格

1000	2ドア	4ドア
オリジナル	36.8万円	39.8万円
スタンダードタイプ	41.8万円	44.5万円
パーソナルデラックス	46万円	48万円
デラックス	48.5万円 R	49.8万円 50.5万円 R
1200	4ドア デラックス	52.5万円 HR.B

(R)はリクライニングシート、(HR)はヘッドレスト付リクライニングシート (B)は安全ベルト(後席)がそれぞれ標準装備

●歩く身に乗る身になって思いやり!!

MAZDA　東洋工業株式会社

性能維持にマツダ純正部品を!!
各種ドライブ用品を取揃えてお待ちしております。

☆ マツダ車のお求めは有利で、手続きのかんたんな<マツダローン>をご利用ください。融資期間は、最長24カ月までございます。
車のことならマークを目じるしに、お気軽にお越しください。

TV
<東洋チャンピオンスカウト>TBS系21局・木曜日午後9時30分～10時15分
TBS・HBC・IBC・TBC・FTV・BSN・MRO・SBS・CBC・ABC・BSS・RCC・RSK・RKB・RKK・OBS・MRT・MBC・RBC・NBC/YBC（金）
<お嫁さん>CX系10局・水曜日午後9時～9時30分
CX・OX・THK・KTV・TNC/STV・ABS（月）/HTV・RKC（金）/FBC（日）

中大学費闘争総括

その1

中大闘争の特徴点は、第一に、圧倒的な学生大衆のもとで、全国唯一の値上げ「白紙撤回」を獲得しえたこと、第二に、それを支える運動における組織と指導が、個別大学の枠を越えて直接国家権力との対決をせまる内容として存在したことである。総括の第一点は、以上の二点の上に立った「白紙撤回」の内容であり、第二点は、当面する七〇年安保阻止という内容と必然的に関連してくる国家による全国大学の完全掌握にいかに対決してゆくのかという観点からの総括である。国家権力は文部省—大学当局—警察権力の連結を羽田以降の大学政策においてすでに準備を完了し、そのような内容としての学園闘争の内容の変化が現実の問題となりつつある。編集部は、二回に分けて、この問題を追求してゆくと同時に、全体の編集の軸に学園闘争の新たな局面における運動論的な追求課題を加え、今後の編集を推進してゆくだろう。（編集部）

二重権力による学内流動化

中大学費闘争における「白紙撤回」の内容は、第一に、学費値上げをに対する学生大衆の圧倒的高揚と、そのエネルギーを支えた闘争の指導性と組織という主体的内容の深さである。第二、中大当局の値上げ決定に対する対応の不十分さが、全体的には升本理事長（総長）のワンマン体制の矛盾として、理事会内部と教授会の流動を生起せしめた、当局側の妥協案としてあったということである。

この闘争内部の構造的把握を通じての闘争の分析は、現在的学園闘争を認識する上に極めて重要である。なぜなら、中大闘争がはらむ、特殊的内容と普遍的内容を明確に浮き彫りにしない限り、中大闘争を全国学園闘争の視点から、その教訓をひき出す作業において一方では教条的あてはめ方式と、他方では、一切の経験を無視したその場主義として、いずれも決定的なあやまちをおかすことになるのである。

まず、中大闘争は、六五年以降に表現されてきた、大衆的な、しかも異常な生命力をもった闘争としての現在的な学園闘争の性格をますます固定化しているということである。慶応大学、早稲田大学、明治大学、関西学院大学など、いずれも学生大衆の自然発生的な闘争の立ちあがりは、結果的には大学の枠を打ち破ることなく、その枠内で敗北を余儀なくさせられながらも、その全国的な学園闘争の波は拡大しつつあるということである。

このような学生大衆の立ち上がりは、五〇年代日本資本主義の高度成長過程から、その後の構造的不況の中での、労働者階級に対する合理化—賃金カット—資本による職制支配が、階層間の利害対立をめぐる流動を開始しはじめ、そのことからの将来の生活設計を含めての学生間の動揺を間接的に含みながらも、直接的には、高度成長以降の大学の社会化の内容が、一方では、大学の資本による直接支配と、合理化=職制支配ともいえる大学の支配体制の変化に起因した学生大衆の存在の矛盾の表現である。

すなわち、大学の工場化としての教育資本あるいは文部官僚、教育官僚と独占（金融）資本とのゆ着による資本の学問研究の直接の利用と、それを通じての学生大衆の体制内化と労働力の生産を目的とする、学生の資本と国家による直接の掌握と収奪の政策に対しての学生の不満の累積と、その爆発であるといえる。これは、現在的学園がかかえる構造的矛盾として不断に拡大再生産されて存在し、学園闘争が極めて社会政治闘争として展開されなければならないという本質規定の物質的基礎である。

また、このような矛盾が、六五年の早稲田闘争においては、一方で日韓条約という日帝の国際外交路線の政治過程に対する政治不審と結合した闘争として質的に存在したように、中大闘争においては学園矛盾の背景にある国家=資本との関係が極めて明確に表現された点で、学園闘争の存在位置が浮き彫りにされた。佐藤政府の七〇年にむけての軍事—外交路線が、首相の訪米、訪ベト、エンタープライズ寄港の承認というかたちで表現されたことは、ベトナム—日本—アメリカという関係での日本の国際的な位置と、それが具体的に核武装の問題として提起されたことであり、しかも、その諸政策に対する学生運動の反対が、国家権力の弾圧体制と、それとの関連での国家による大学支配の具体化という、国家権力—文部省—大学当局の関係を、学生大衆の前に明確に暴露したのである。

以上のような要因は、学生の政治的経済的な対応を、ますます資本との直接対決に近づけていき、この関係の中で、学園闘争は、その質を資本主義社会体制そのものの評価をめぐる闘争として、すなわち政治闘争との結合の要因を含むものとして規定されざるを得ないのである。それは、第一に大学ナショナリズムとの対決であり、第二に国家との対決である。早稲田、明治の学費闘争は、その闘争の過程で学生の内部崩壊として敗北した。高崎経済大学は、当局の暴力との関係で、体制内における生命の問題として敗北した。しかもこれらを含めて、すべての学園闘争は、個別分断されたかたちで敗北していったのである。その総括的克服は極めて重要である。

国家への直接的解決

学園の枠突き破る闘争

政治闘争との結合が要

中大闘争で追求された問題は、学生大衆のその自然発生性とその膨大なエネルギーを、当局との権力関係において維持、拡大しつつ中大ナショナリズムをいかなるかたちで克服してゆくかということだった。すなわち、個別闘争の撤底化という内容が、これまでは、具体的には個別の枠を出ることなく一方では暴力的に、他方ではサンディカリズムとして一定程度の余命を保ちながらも全体として学生大衆のナショナリズムに敗北してゆかざるを得なかった経験を踏まえての闘争の切開が要求されていたのである。

結論からいうと、それは、第一に学内に当局側と学生側の二重権力状況を組織的に形成しえたこと、第二はそのことをもっての学生を結集を保持しつつ、個別闘争の勝利を、個別の枠を越えた闘争の外からのもち込みによって個別闘争を位置づけたことによる。具体的には、エンタープライズ寄港阻止という政治闘争との結合をもって学費闘争を国家権力との対決関係にまで推進したことである。このことは、これ以降の学園闘争に極めて大きい教訓として存在する。

それでは、二重権力状況としての組織形態を再検討してみよう。

全学学生評議会（全学評）の構想は、日常的に学園生活における学生の自立的権力の集約機構の頂点として、最終的には大学の権力を移行させえるものとして存在し当面は当局との関係において、常時的に存在する闘争可能な組織として形成することであった。この構想は、自治会という現体制下の学生支配の存在形態をのり起える真に学生の利益を貫徹するための組織形態の追求であり実験として存在した。もちろん、この構想は突発的に〝発見〟されたアイデアではなく、現実の学園闘争の経験が語るように、現体制下の大学の構造的矛盾—必然的に資本とのゆ着をせざるを得なく、それを学生大衆の抑圧のもとに進行させるという矛盾を真にのり超えるものは単に大学権力への抵抗としてではなく、明確に自己の権力を実体的に形成せざるを得ないという必要性に基づいている。

その全学評を過渡的に形成しょうとしたのは、学費闘争における全学学費闘争連絡会議（学闘争）であった。さらにそれを確定づける行動委員会の提起である。それはまず第一に学生のあらゆる闘争組織の代表者による討議機関として位置づけ、直接民主主義を追求したことである。第二に、学闘連にすべての闘争の集約点としての執行機関として存在づけ、全体的に学闘連を学生すべての大衆的な闘争機関として、学費闘争を学生の利害に基くものとして大衆性をかちとったことにある。

現在の学費闘争は、単に値上げをめぐる闘争ではなく、学園内部における学生の全体的利益の獲得にむけての追求であり、その意味で闘争は永続性をもち、また全人民的意味をその内部に含んでいるのである。学費闘争は、現実的な内容としては、当面する学費値上げ阻止を追求しながらも、本質的には現体制の大学矛盾を学生自らがその過程で追求してゆくという内容を含んでいることは、一般的ではあれ、重要な課題なのであり「白紙撤回=勝利」としての自己満足は、一切の問題の解決にはなりえないし、個別闘争が現在もつ体制批判の内容を普遍化することができずにむしろ犯罪的な役割をはたすのである。

中大闘争は、長期的な展望をもつ闘争として展開された。その性格を決定づけたのは、行動委員会の提起による学生の新たな団結形態を追求したことである。行動委員は、はじめ公募により組織され、その行動委員を核として、これまでのクラス、サークル等単位としたブルジョア体制内の固定化した団結形態を打ち破り、新たな闘争組織を再組織することを追求したことである。これらは学生の体制を越えた団結の形態として、中央大学という固定化され大枠を破壊する内容を内に含んでいたのである。

そのような団結形態の可能性はエンプラ闘争という、外との闘争の結合をもって具体的に闘争の過程で獲得した内容でもあった。中大闘争は、その意味では、対大学対国家権力という現象的な対決の関係を対国家権力という内容にまで具体的に拡大しえた唯一の闘争であったし、これまで個別闘争が個別としてしか表現されずに敗北していったという限界性を克服しえたのである。このことの意味は極めて重要である。もちろん、それは現実の政治過程という客観的な情勢の上で支えられた闘争であったのであり、その認識こそ重要であることは論をまたない。具体的な闘争の進展は、その関係を意識した指導性を含めて行なわれるのである。

次の問題に移ろう。学生の闘争の内容が、単に学校権力との対決関係にとどまることなく、それを含めての権力総体（国家権力）との対決関係の中で自らの権力をつくり出していったことは、当局、特に教授層の動揺と分解をもたらし、全体的に孤立化と内部対立を生じせしめた。それは升本ワンマン体制の破綻として、「白紙撤回」という妥協の表現としてあった。当局内部には、それまででも、教授会と理事会、特に升本理事長の対立が内在し、理事会構成における教授層の介入が実質的に断たれている状況に対する不満は存在していたが、決定的なのは、値上げをめぐる大学構想の貧弱さによる。五割近い値上げの内容は、単に教育改善を唱えているだけの無内容なものであり一月にはいって教学審議会（学長の諮問機関）が急拠教学内容の改善条項を提示したものの、教授会それに学生の理事会不審はぬぐえなかったといえるだろう。そして、そのような要因は升本理事長の強行な値上げ決定として現象し、理事会内部の動揺、教授会との敵対化を生み出したのである。

特に理事会の値上げに対する対応の貧弱さは、日共系教授をつき動かし、教授会を反対派にまわらせるという働きをなしたことにも表現されている。これまでの闘争で日共系の教職員、学生が表現した内容は、大学経理の赤字の内容を、国家の行政の矛盾として位置づけ、国庫補助運動に闘争をすりかえていったことを考えるならば異例のことであり、注目に値する。しかし、それは、中大闘争以降の学費闘争における彼等の内容の転換でもないし、本質は常にかわらないということを明記する必要があるだろう。

日共の路線が、民族主義であることは、学費値上げの内容の説明と、それに伴う大学構想が明確になされた場合、大学ナショナリストの本質上、国庫補助要求として闘争の軸をすえるだろうし、現実に中大の場合は、値上げによるナショナリズム的要因がつき動かされずに、逆に、学生の闘争の強固さによる体制内での中央大学の存在を感知しての現状維持の内容なのであり、本質はまさにナショナリズムにほかならない。

中大闘争は、これまで述べてきた①学生の闘争の強固さ、②理事会の対応のミス、③日共系教授を中心として現状維持派の三つ巴の中で闘かわれ、その上での当局の一時的な妥協としての「白紙撤回」なのである。

しかし、何度もいうように、学生が過程として追求しえた学生による権力の構成は、これ以降の学園闘争に大きな教訓を残した。全学評にしろ、学闘連にしろ、行動委員会にしろ、決定的な経験—国家権力の大学への暴力的介入—をすることなく現象的には十六日の段階で解体していったように闘争の真の内容を問う時点にまで直面しなかったことは今後に極めて大きな問題を残したとはいえ、早稲田、明治以降の学園闘争の内容を大きく克服しえたのである。

今後の課題は、中大闘争の経験しなかった部分を中心としつつ、拡大する国家の全面攻撃の中で、どのように闘いを推進してゆくのかという問題を、当面する七〇年安保闘争との関係で目的意識的に追求してゆくことである。（つづく K）

集会に結集する中大学生（中庭集会場）

羽田デモ育英資金停止処分に

本学だけで日本育英会に抗議

本学は、さきに開かれた学部長会議決定に基ずいて、日本育英会の羽田デモ検挙者奨学金停止処分に対して抗議文を作成し、二月二〇日学生部厚生課長河井氏が上京し、日本育英会に本学単独で抗議文を提出した。

内容は育英会の一方的な処分（手続き上の問題）に抗議し、学生運動の取締りは教育上疑問であり、このことが政治活動の妨害につながるのではないかなど、日本育英会に対してかなり批判的なものであった。

この育英会の処分問題は、さまざまな方面へ波及しており、国立大学では国大協がすでに日本育英会に申し入れしており、また私立大学では私大協などが抗議を討議中であるが、まだ一つの大学が単独で抗議した例はなく、各界から注目されつつある。

学生部厚生課長河井氏は「今度のことは大変にしんどい仕事でした。なにしろ本学だけですからな。色んな大学『同志社さんこれで政府からすごく睨まれますよ』と忠告してくれましたよ。でも同志社というところは、昔からそういう大学でしたからね」と語っていた。さらに河井氏は「一大学だけでは影響もうすいので、関西大手私学（関大、関西大、立命、本学の四大学）で三月中に意志統一を行ない日本育英会へ共同抗議する予定だ」とも語った。

一方、日本育英会は本学の抗議文に対してすぐ返答を本学へ電話でおくり「この件については慎重に理事会にはかり、最低一カ月は奨学金停止を決定した。羽田デモは三派系全学連委員長が公然と今の法秩序に挑戦したものであって、われわれも対応せざるをえなかったのだ」と全く本学の抗議を受け入れる態度は示さなかった。

20・21日に卒業式

六七年度卒業式が三月二〇、二一日に栄光館、神学館礼拝堂で行なわれ、一、二部合計して三二二八人が本学を卒業する。

卒業式は本年度も学部別に行なわれる予定で三月二〇日は、神学部一三人が午前九時から神学館礼拝堂で、法学部一部五九九人、二部五一人が午前一二時から栄光館で、文学部一部七二六人、二部四人が午後三時から栄光館で、また二一日は栄光館で商学部一部四九九人、二部四七人が午前九時から、工学部五五二人（一部のみ）が午前一二時から、経済学部一部六八五人、二部七二人が午後三時から式を行なう予定。

小休止状態の寮闘争

当局の弾圧続く

全寮協と学生部との二月一六日に開かれた二回目の団交により「学校側は大学評議会で水光費問題が話しあわれるまでは寮生の家庭に通告はしない」という確約がとり交わされて以来、水光費闘争は外見上は小休止状態にある。しかし、この小休止状態が続くなかにも、寮生への圧迫は続き、特に水光費未納の卒業生約七〇人は卒業名簿から外され、三月二〇、二一日の卒業式には出席できない仕組になっている。

水光費闘争の歴史を見ると、六五年度からはじまっており、この年学校当局は水光費の支払を寮生に要求し、一時的に基本料の全額は学校側が負担し、使用料を六対四の比率で寮生が支払うという形で一応の結着がついた。つづいて六十六年度は不払い運動を寮が行ない四十人が三月三一日除籍、四月一日復学という形式的処分をうけた。本年度も全寮協は「寮は学校の一施設であり、学校当局は当然水光費の全額を負担すべきだ。六対四のとりきめは一時的なものであり、過去の約束を現在にもあてはめることはできない」などの主張で不払いを続けている。

これに対して学校側は「学寮は学校のひろい意味での教育施設の一環であり、それ相当の財政的負担は当然であるが、かといって水光費の全額を払うことはできない。六対四の比例負担は絶対的なものではないが、納入した上で話しあうべきだ」と主張し、平行線のままである。

全寮協の闘争委員会の話では「三月三一日をこえても不払いを続けるつもりである。こういった個別経済闘争の展望は非常に暗いわれわれは勝つ、敗けるよりも、大学の帝国主義的再編をどれだけ暴露するかに比重をおいている」ということであった。

当局「革命でも起こらなければ 寮に完全自治権はない」

入退寮権闘争も紛糾したまま

入退寮権をめぐる闘争も二月二十九日の全寮協と学生部との団交で具体的な歩みよりはできず、大学論をめぐって紛糾したまま現在にいたっている。

全寮協側は「寮の権利の一切は学生の手にあるものであり、とくに入寮問題については募集、選考発表はすべて寮生が行なうもので最終責任も寮長の手に渡されるものだ」と主張し「寮に完全自治権はありえない、革命でもない限り現在の大学機構の中では最終責任は大学にあるべきものである。問題は権利の問題ではなくて、学校側が寮生にできる限り自治を与えていくという移譲の問題である。」と主張する学校側と平行線のままである。

この入退寮権をめぐる闘争は、はじめは相互寮理念にもとずいた寮の解放闘争（一部の寮には神学部の学生しか入れないという学校側の規定があり、この規定が民主的ではないから撤廃せよと全寮協が提起した闘争）として進展し、一昨年の暮から現在のように権利の問題として闘われるようになった。

新入寮生の問題については、全寮協はさきに開かれた代議員会で「一、学生部との団交の継続、二、当局の募集に対する実力阻止、三、もし仮に当局が新入寮生を発表しても入寮は拒否する、四、四月に全寮協が自主募集を行なう」という方針を決定しており、学校当局は全寮協との話しあいで一応の解決がつくまでは募集しない旨を言明している。

全寮協の闘争委員会では「新入寮生の問題については勝利の展望がある。というのはもし当局が入寮許可を与えた新入生がいても、寮は実質的にこの新入生の入寮を拒否することができるからだ。当局は『新入寮生の募集、選考、発表すべて寮生にまかせるが最後に新入寮生に学生部長の許可証を交付することだけは当局にやらしてほしい』という妥協案も提起している。がわれわれはあくまでもこの闘争を権利の闘争と位置づけており、当局の妥協案では満足することができない」と言明している。

学生運動に知的ヘゲモニーを

学術団LC行なわれる

学術団リーダーズ・キャンプが天の橋立の国際観光旅館で三月一日から三日間六〇人を集めて行なわれた。

内容はいかにして知的全体性、知的道徳的ヘゲモニーを全学連運動に付与するのか、またいかにしてインテリの自立した運動を可能にするかというものであった。

京大警官立ち入り事件

藤枝君に罰金一万円の判決

三月一四日午後一時四〇分から、京都地方裁判所で京大警官立ち入り事件の被告京大生藤枝君（農学部四回生）に対する判決が行なわれ、単純暴行罪で罰金一万円の判決が行なわれた。

判決の内容は「被告のいう大学の自治というものは絶対的なものではなく、また検事側の主張する警ら巡回中の公務執行妨害も成立しかねる。よって単純暴行罪を適用する。」といった旨のものであった。

4面よりつづく

ツク関西支社）▽松井淳▽松井秀雄（滋賀銀行）▽松井弘（住友商事）▽松川正夫（内田洋行）▽松久保享（松久保計画事務所）▽松本英一（京都信用金庫）▽松本勝次（福徳相互銀行）▽松本昌邦（ゼネラルフーズ）▽松本勝（ヤンマージーゼル）▽松本俊明（野村証券）▽松本豊（倉紡）▽松野修（井沢金属）▽松浦彩子▽三木善郎（郵政省）▽水口三千雄（大阪鋼材）▽三品繁正（ほていや）▽三田勝彦▽三田村嘉天（北陸銀行）▽光岡信二（日本レース）▽三輪進（北島）▽宮井俊蔵（日糖飲料）▽宮川忠憲（安島産業）▽三宅弘敬▽三宅孝夫▽宮本和男▽宮本武威▽宮嶋義雄▽宮田邦蔵▽宮崎靖之▽溝口利道▽水口正博▽水井通昭▽水本信定▽水本茂己▽水主邦彦▽森嶺治▽森本忠臣▽森田繁夫▽森山洋昭▽元嶋文雄▽棟居則夫▽村井一恵▽村上勁志▽村上茂▽村岡健二▽村岡正敏▽村田宏▽永井弘一▽永味英俊▽長縄芳彦▽長尾健三郎▽長岡一美▽長沢寿孝▽中地正男▽中出信次▽中江哲士▽中嶋暁▽中島克弘▽中島克己▽中島良夫▽中木宗一郎▽中村皓一▽中村弘二▽中村光昭▽仲村十九正▽中根敏夫▽中野進▽中岡暉喜▽中島正昭▽中筋武蔵▽中谷洋▽中辻正樹▽中矢正倫▽中山健二▽中山剛男▽中山善雄▽夏目徹▽名和恒夫▽西田一博▽西田俊一▽西原宗男▽西川剛史▽西本太観▽西村誠▽西村正孝▽西村俊昭▽西野功▽西尾幹生▽西尾修▽丹羽耕太郎▽丹羽誠▽丹羽茂（日進機械製所）▽野休建▽野次笺彦（大阪殖産言用金庫）▽野田雅彦▽野一色郁子▽野間克志（河合楽器）▽野々垣節子▽法田昌美（池田銀行）▽小畑龍三（小畑商店）▽織田昌克（日糖飲料）▽小田俊彦（オリオン社）▽小田良明（近江鉄道）▽小笠原章嘉（伏見信用金庫）▽小川博（神鋼商事）▽小木曽和博（石塚ガラス）▽狄田紘一▽岡田真忠（資生堂）▽岡本勝二▽岡本忠雄（杏林薬品）▽岡村道則（日本油肪）▽岡村敏之（北海道三菱ふそう自動車）▽岡野孝治（平野屋）▽岡崎昭▽岡崎卓史▽沖村武佐（日本ヘキスト）▽奥長世（ニチイ）▽奥堯（日興証券）▽奥村哲（ほていや）▽奥村徹（精工産業）▽奥村俊彦（東芝）▽小野志保子▽大垣正芳（中外貿易）▽大浜脩（全薬工業）▽大原昭弘（郵政省）▽大平皓三（市田）▽大井信雄（野村貿易）▽大石泰男（京都中央信用金庫）▽大川邦夫▽大久保忠彦（京都中央信用金庫）▽大草哲夫▽大成敏夫（日本メルク万有）▽大西浩司（東芝関西）▽大西克彦（伊予銀行）▽大西正雄▽大西信雄（住江織物）▽大野宏（大豊産業）▽大崎重晴（河合鋼鉄）▽大鮫久夫（芝電気）▽大沢国昭（ヤンマーヂーゼル）▽大末繁（主婦の店ダイエー）▽大隅厚啓（日本電池）▽太田栄一（関谷産業）▽太田和久（三和銀行）▽太田邦幸（松下電器）▽大谷孝治（日本通運）▽大谷宗則（東京トヨペット）▽大家利之（山本防塵眼鏡）▽大山邦彦（豊橋市役所）▽尾崎利康（松村組）▽小篠正行（宇部日東化成）▽小沢英五（松下電器貿易商）▽龍建太郎（日新火災海上保険）▽佐伯敏行（大東京火災海上保険）▽斎藤弘之（森紙販売）▽坂井寿男（京都信用金庫）▽坂井一民（京都信用金庫）▽酒井忍▽賢木且彦▽神原等（松谷鉄工所）▽榊原正博（国家公務員）▽榊原吉孝（商兵）

▽阪本雅彦（大阪魚市場）▽阪本峰生▽坂野泰治（酒伊商事）▽坂田徹（日本合紙器）▽左近茂樹（島津）▽桜井義郎（安田火災海上保険）▽佐野隆和（東海銀行）▽佐々木譲（勝根又）▽佐藤雅洋▽佐藤正統（中川安）▽佐藤雅信▽佐藤誠吾（本州化学工業）▽佐藤忠寿（濃飛倉庫運輸）▽沢田力雄（金沢信用金庫）▽関口信治（殖産住宅相互）▽関根秀夫▽柴田義明（大和銀行）▽柴山禧一（実川たんす）▽島村稔（大和銀行）▽島崎孝（九州三菱ふそう自動車販売）◇清水ケイ子▽志水忠彦（光陽社）▽清水由一（ピアス）▽下村紘一（前川製作所）▽霜田則子（高千穂交易）▽新開隆弘（いずみや）▽篠田康平（大垣共立銀行）▽新谷健雄（兵庫相互銀行）▽白勢春輔（日本冶金工業）▽東海林忠博（コーンズアンドカンパニーリミテイッド）▽園部進一（日本レース）▽菅森康二▽菅原勝男（中島洋紙）▽杉橋和彦（杉橋建設）▽杉本富（大沢商会）▽杉本陽子▽杉村茂（イトキン）▽杉田満男（酒伊商事）▽杉戸英夫（永大産業）▽住川健司▽諏訪州彦（味の素）▽鈴木悦義（平和生命保険）▽鈴木智（百五銀行）▽鈴木忠雄（興紀相互銀行）▽鈴木常夫（ダイハツ）▽鈴木強▽鈴木康子▽田口罰治▽大平隆之助（日本レミトンユニバック）▽田治康博▽高田紘至（勝根又）▽高垣芳栄▽高木正雄（スワン山喜）▽高橋克紀（豊田通商）▽高橋正佳（北国銀行）▽高橋照雄▽高橋俊郎（十合）▽高松隆志（日興証券）▽高松四十七（高砂熱学）▽高見文三（佐野安船渠）▽高瀬真人（広島銀行）▽竹田勇（石川トヨタ自動車）▽竹鼻信昭▽竹道正次（オリエントリース）▽竹内和彦▽竹山直宏（富士ゼロックス）▽民秋容子▽田村国昭（桜物産）▽田辺茂利平▽田中治夫（大沢商会）▽田中博文▽田中淳一（内外衣料）▽田中研一（住友海上火災保険）▽田中光彦（大和証券）▽田中南海夫（中嶋弘産業）▽田中孝生（大阪読売新聞）▽田中俊彦（愛知陸運）▽田中泰行（光洋商事）▽谷口勝俊▽谷口賢一郎（近江屋興業）▽谷井孝三（村井会計事務所）▽樽本正昭（東洋工業）▽立林三朗（殖産住宅相互）▽田坪佳子（京都大学）▽田内建太郎（愛知製鋼）▽寺沢二郎▽東川弘之（資生堂）▽徳地裕次▽徳永修一（九州ダイハツ自動車販売）▽富井和夫▽富田宏（大和産業）▽富田道子▽富田道夫▽友田俊一（ザ・チェス・マンハッタン・バンク）▽東条仁彦（万美乃素）▽[illegible]

[illegible]

皆さんの引越は引受けました

㊕ 加茂運輸

京・北区小山北玄以町14 TEL (46) 2501 (49) 6672

貨物から乗用車・マイクロバス迄

高速レンタカー！

本部営業所 京・丸太町岡崎電停西 TEL (76) 2111 大代表

五条営業所 京・山科新五条通川田道バス停東 TEL (58) 4171

四条営業所 京・四条西洞院上ル TEL (23) 2400・8514

円町営業所 京・円町電停下ル TEL (81) 4025

明るく楽しく münchen

さわやかな春をミュンヘンで

ビールパーティにどうぞ お一人様 300円より

スタミナのつく成吉思汗鍋 お一人様 400円より

学生のビヤホール

名物!! 成吉思汗鍋 ジンギスカン

クラブサークルの会合には TEL 連絡事務・貸ホールも承ります (22) 3817

ミュンヘン

河原町四条店 TEL (22) 3505

三条大橋西詰先斗町店 TEL (23) 1591

同大生のスタミナづくりをお引受けいたします

ホルモン 焼肉 軽食

川千鳥

室町センター2階 営業時間 AM11:00〜 PM11:00 TEL (43) 4677

同大生歓迎

質は井筒屋へ

室町通今出川北 電話 (44) 7874

サービスの良い 同大生憩いの場

麻雀 西北荘

上京区烏丸上立売電停前東入ル一筋目上ル TEL (4) 6805

今評判の京一の高価貸付 同志社大生歓迎

質 よしや

河原町丸太町西側上ル TEL (23) 7375

販売所 河原町丸太町上ル西側（河丸市場内）